

第二小学校／高松児童館／曙学童保育所複合施設の整備を進めます

第二小学校等複合施設(第二小学校／高松児童館／曙学童保育所)整備事業について、公募型プロポーザル方式による事業者の選定を行い、令和6年第4回市議会定例会における契約議案の審議を経て、令和7年1月に優先交渉権者である関東・長井特定建設工事共同企業体と契約を締結しました。今後は、まず新校舎の基本設計と仮設校舎の設計を行い、令和8年3月に仮設校舎へ移転し、令和11年1月には新校舎の供用開始ができるよう進めてまいります。なお、事業の進捗に合わせ、第二小学校児童の保護者、高松児童館、曙学童保育所利用の関係者や地域の皆様等に向けた説明会等を開催し、ご意見等を聞きしながら進めていきます。

なお、本事業で整備する施設の機能と提案概要については次の通りです。

1 複合化する施設・機能

第二小学校、高松児童館、曙学童保育所、集会・交流機能(地域交流室)、防災機能

3 階建て校舎の外観イメージ



校庭側からの外観イメージ



2 施設整備請負事業者の提案概要

(今後の設計等における協議により変更となる場合があります)

階数	地上3階
延床面積	約6,850㎡
構造種別	鉄筋コンクリート造

併せて、太陽光発電設備と蓄電池を設置します。

本事業提案書の概要や現時点のスケジュール案を市ホームページに掲載しています。



岡学校施設建替担当課管理係・内線2474

立川市の歴史と文化財 56

立川キネマ開館から一〇〇年

立川キネマは、大正14(1925)年7月に現在の高松町3丁目に開館しました(写真1)。その頃の立川は、大正11(1922)年に開設した立川飛行場に陸軍第五大隊が移駐し、飛行場関係者が多く移住してきたことで急激に人口が増え、翌12(1923)年に町制を施行し、立川村から立川町になったばかりの時期です。大正14年7月14日付『東京日日新聞 府下版』には「立川キネマ今日開場す」と題して、「非常に

現在、立川市域には映画館が4館あり、多くの人々に賑わいをみせています。映画産業が隆盛を極めた昭和30年代には、立川には最大10館もの映画館があり、「映画の街」ともいわれていました。その嚆矢となった、立川で初めて開館した映画館「立川キネマ」のことはご存じでしょうか。

写真2

初風号の機体。写真の裏書には「朝日新聞社訪欧飛行 初風 立川飛行場二於テ」とあります。



写真4

立川キネマでの「立川小唄」発表会



写真3 欧州訪問大飛行記念の絵葉書



航空機の飛行場としても利用された立川飛行場では、朝日新聞社の第一回訪欧飛行が計画されていました。大正14年7月22日に立川で出発式を行い、フランス製ブレゲー式航空機の初風号(写真2)・東風号の2機が代々木練兵場現在の代々木体育館付近までトラックで運搬され、歓迎会ののち25日に代々木を飛び立ちました。ヨーロッパへ向けた日本人初の訪欧大飛行は成功し、この大飛行を記念した絵葉書も作成され

勢いで発展しつつある立川町にはこれまで町民の娯楽機関といふものは一つとしてなかったために休日の飛行隊兵士その他町民は何れも八王子市や東京にわざわざ出かけねばならなかったが(中略)立川キネマ常時館を設立」することになったと記されています。

当時の立川キネマ周辺は人家もまばらで、雑木林や松林などが広がっていました。そのような状況において、立川キネマは単なる映画館というだけでなく、灯びやかに夜を彩る人々の社交場でした。

立川キネマは戦後に改称して「シネマ立川」となり、大衆演劇の劇場として利用されましたが、テレビの普及とともに映画産業が次第に衰退すると、昭和44(1969)年に廃業、経営難から幕を降ろし、昭和51(1976)年に閉館しました。館はなくなってしまうましたが、立川キネマがあった痕跡は現在も「シネマ通り」として残されています。

芝地通れば、なつかしや
恋の花咲くキネマが見える
空の都よ、立川よ

「立川小唄」にも唄われています。

昭和5(1930)年には空の都立川を唄い込んだ「立川小唄」が制作されますが、同年4月10日に行われた「立川小唄」発表会でも立川キネマで行われました(写真4)。発表会当日は八王子・青梅・府中の芸者衆と500人を超える参加者が集まり盛大な会であったようです。立川キネマはこの「立川小唄」にも唄われています。

立川で2機の操縦士・機関士である安辺浩・篠原春一郎・河内一彦・片桐庄平の4人を招いて歓迎会が行われましたが、その会場となったのも立川キネマでした。当日は大飛行の記録映画の上映もあり、超満員だったといわれています。

数々の娯楽があふれる現代において、立川は映画館の街にとどまらず、ドラマや漫画、アニメーションなど、サブカルチャーの聖地としての一面ものぞかせています。そんなサブカルチャーの聖地たる礎が一〇〇年も前に築かれていたことに深い感慨を覚えます。

国歴史民俗資料館生涯学習推進センター文化財係 ☎(525)0860